

第3学年国語科学習指導案

日 時 平成18年10月26日(木) 5校時

場 所 3学年教室

児 童 男11名 女11 計22人

指導者 渡辺 謙一郎

- 1 単元名 進んで話し合い，発表しよう（光村図書「国語3年上」）
教材名「分類」ということ （話すこと・聞くこと・読むこと）

2 単元について

(1) 教材について

第3・4学年における「話すこと・聞くこと」領域の目標は、「相手や目的に応じ，調べた事などについて，筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに，進んで話し合おうとする態度を育てる。」ことである。また、「読むこと」領域の目標は、「目的に応じ，内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに，幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。本単元では，この目標を踏まえ，「互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合う力」と「話す事柄を整理し順序立てて話す力」を育てることをねらいとして設定した。

この時期の児童は，敵か味方，善か悪，正解か不正解というように，身のまわりの事象を二分法で判断しがちである。そのような二分法を通して徐々にものの見方や価値観が形成されていくが，時にはそれが安易な理解や判断につながりかねない。児童の身の回りには二分法では判断できない事象に遭遇することが多くなり，それ以上の分け方が必要となってくる。生活の様々な場面で必要とされる作業である「分類」という思考活動を取り上げることで，身のまわりのものを言語化して分ける「言葉の力」を培うことができると考える。

本教材「『分類』ということ」は，大きく3つの学習活動からなる。第一次は，教科書のねこが描かれた挿絵を見て，ねこをどのように分類したのかを話し合う活動である。「分類」という思考活動を通して，それぞれの観点が違うことに気づき，お互いの考えを尊重し合うことをねらいとしている。第二次は，分類に関わって自分で課題を決めて，調べ方を考える活動である。調べ方の1つとして，インタビューの実施を取り上げているが，インタビューするにあたっては，言葉遣いやマナーの大切さに気づかせながら，情報を収集し，発表に向けて必要のある事柄を選択・整理できることをねらいとしている。第三次は，発表に向けての活動。調べた中身が相手によく分かるように，話す事柄や順序を考え，表や図にまとめたり，ビデオを見せたりするなど，様々な工夫をしながら発表することをねらいとしている。

以上のことから，児童のものの見方や価値観の形成に必要な「分類」という思考活動を話し合い活動の導入として位置づけ，話す事柄を整理し順序立てて話す力を育てるには，本単元は有効であると考えられる。

(2) 児童について

児童はこれまでに，3年上「道案内をしよう」で順序に気を付けて話したり聞いたりすることを学んできた。ここでは，地図を使って道案内の練習を行う中で，順序立てて説明する時に使う言葉を学

習している。また、道案内を話し手と聞き手に分かれて行うことによって相手を意識するようになってきた。話し合うという活動については、ほとんどの児童が不慣れである。グループ内で数名の意見に流されることも多い。さらに、2年時から続けている朝の会でのスピーチコーナーでは、思ったことについて理由を付け加えて話す経験を繰り返してきた。しかし、自分の思ったことを簡単に伝えることはできていても、詳しく伝えたり順序立てて話したりする力は、しっかりと身につけているとはいえず、また、話形も決まりきったものである。日常の会話でも伝えたいことがはっきりしない子もあり、教師が聞き返す場面も少なくない。

(3) 指導について

単元の指導について

本単元の指導にあたっては、自分なりの観点を明確に持たせて分類させ、友だちの観点との相違点や共通点を考えながら小グループで話し合わせる。また、話したいことが相手によく伝わるように、内容を整理し、話す順序を考えさせて発表させるようにする。具体的には、次のような手立てを講じて指導にあたりたい。

- ・ねこの分類については、できるだけ多くのパターンで探させ、様々な視点から分類させるようにする。その際、分類の観点を明確にさせるように指導する。
- ・友だちの分類の観点と自分の観点との相違点や共通点を考えながら話し合わせる。
- ・課題を決めて調べる活動をさせる際は、発表会があることを知らせ、常に目的意識を持たせて活動させる。
- ・聞き手に内容がよく伝わるように、話し方の工夫を考えさせる。

主題に関わって

ア モデルの効果的な活用の工夫について

第一次では、「分類」の仕方を具体的につかませるために、授業前半で教師が用意した、望ましい姿のモデルを活用する。そして、授業後半で、どんな観点でどんな分け方をしたかについて数名の児童に発表させ、学習のふり返りとする。

第二次では、課題を決めさせたりインタビューをさせたりする場面で、活動内容を具体的につかませるために、授業前半で教師が用意した、望ましい姿のモデルを活用する。また、課題をなかなか決められない児童や調べ活動が進まない児童を支援するために、児童から望ましい姿のモデルを抽出し、活動の参考とさせたり、意欲を高めたりさせる。

第三次では、発表の仕方を具体的にイメージさせるために、教師が用意した教科書や付属CDをモデルとして活用する。また、発表の練習段階で、授業の中盤に児童から望ましい姿のモデルを抽出し、他の児童の目標とさせ、意欲を持たせる。

イ 互いのよさを認め高め合う活動の工夫について

児童にとって初めての活動となる「分類」や「話し合い」の活動については、児童の活動を始めに教師が具体的且つ客観的に評価してやり、そのよさを他の児童に広げるとともに、意欲を喚起する。児童が活動に慣れた頃に相互評価を取り入れ、互いのよさをできるだけたくさん見つけさせる。また、相互評価や自己評価では、評価カード等を工夫し、観点にそった評価ができるようにする。

3 単元の目標

< 関心・意欲・態度 >

「分類」の相違点や共通点に興味を持ち，進んで話したり聞いたりしようとする。

< 話すこと・聞くこと >

自分の考えが相手によく分かるように筋道を立てて話すことができる。(話すこと・聞くことア)

話の中心に気を付けて聞くことができる。(話すこと・聞くことイ)

互いの相違点や共通点を考えながら話し合うことができる。(話すこと・聞くことウ)

< 読むこと >

「分類」を読み，内容を理解することができる。(読むことオ)

< 言語事項 >

その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。(言語ア(ア))

相手やその場の状況に応じて丁寧や言葉で話すことができる。(言語カ(ア))

4 指導計画 (全14時間)

次	時	学 習 活 動	評 価 規 準	
第 一 次	1	ねこの挿絵を見て幾つの特徴に気づき，分け方が説明できるように整理する。	関	ねこの分類に興味を持ち，分け方を考えようとしている。
			話	自分の分け方を，根拠にそって話している。
			言	場に応じた適切な音量で話している。
	2	「話し合いで大切なこと」を押さえ，グループでねこの分け方を話し合う。	関	友だちの考えをよく聞き，進んで話し合いをしようとしている。
			話	友だちの考えとの相違点・共通点を考えながら話し合っている。
3	グループで話し合ったことをまとめて，発表し活動をふりかえる。	関	他のグループの考えをよく聞き，自分の考えと比べようとしている。	
		話	相違点・共通点を考えながら，他のグループの考えを聞いている。	
		言	場に応じた適切な音量で話している。	
4	資料「分類」を読み，色々な分類の仕方があることを知る。	関	分類について大事なことや初めてのことを見つけようとしている。	
		読	大事だと思ったことや初めて知ったこと，「分類」とはどのようなことかを理解し，ノートに書いている。	
5	ねこの分類を見直し，グループで再度話し合う。	関	自分の分類を見直し，自分の考えを深めようとしている。	
		話	自分の分類を見直し，他のグループとの相違点や共通点について考えながら話し合っている。	
第 二 次	6	分類できるものを探し，発表までの見通しを立てる。	関	分類できるものを見つけようとしている。
			話	分類できるものを見つけることができる。
7	分類の課題を決める。	関	発表に向けて進んで計画しようとしている。	
		話	分類の課題を決め，話すことができる。	

第二次	8 9	発表の材料を集めて実際に分類し、分類の仕方についてグループ内で話す。	関 話	発表する材料を進んで探そうとしている。 分類の仕方について話すことができる。
	10	まとめるための観点を理解し、調べたことをまとめる。	関 話	調べたことを観点に沿ってまとめようとしている。 まとめるための観点を理解している。
第三次	11	発表会の流れについて知り、発表内容の組み立てを考えて、発表メモを作る。	関 話	話す事柄を整理し、順序を考えて発表メモを作ろうとしている。 発表内容の組み立てを考え、発表メモを作ることができる。
	12	小グループで発表の練習活動をする。 【本 時】	関 話 言	自分の考えを聞き手によく伝わるように工夫しようとしている。 話す事柄を整理し、順序立てて話している。 場に応じた適切な音量や速さで話している。
	13 14	「分類」の発表会を開き、学習のまとめをする。	関 話	よいところを見つけ、感想を持とうとしている。 よいところを見つけながら、発表を聞いている。

5 本時の指導

(1) 具体目標

ア 目標とする児童の姿

聞き手に自分の考え（分類の仕方や分類の工夫、どう役立つか）がよく分かるように、話す事柄を整理し、順序立てて話すことができる。

イ 身につけさせたい言語能力

筋道を立てて、場や状況に応じた適切な声量や速さで話す力

(2) 展 開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 (5分)	<p>1. 学習課題の確認</p> <p>(1) 前時までの学習をふりかえり、発表練習をすることを確認する。</p> <p>(2) 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>話すことを整理し、順序に気をつけながら発表しよう。</p> </div>	<p>・相手に自分の考えがよく分かるにはどうすればいいか、発表のポイントを想起させ、発表の見通しを持たせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><発表のポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す事柄を整理する。 ・話すじゅんじょを考えて話す。 ・相手のよく伝わるような声の大きさや速さで話す。 </div> <p><紙板書></p> <p>・導入段階はできるだけ短時間で行い、展開の時間に食い込まないようにする。</p>

<p>展 開 (35分)</p>	<p>2. 発表練習 (1) 発表練習のやり方を確認する。 ・発表の仕方を確かめる。 (2) 1回目の発表練習をする。(2人練習) ・隣同士で向かい合い、順番に発表練習をする。 ・聞き手はよさを見つけ、アドバイスをする。 (3) 2回目の発表練習をする。(班で練習) ・相互評価の仕方を確認する。 ・班に分かれて発表練習する。 ・相互評価をする。 (4) 友だちの発表を聞く。 ・友だちの発表を聞き、よさを見つける。 (5) 3回目の発表をする。(班で練習) ・2回目の評価を活かして、3回目の練習をする。 ・相互評価をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き方やアドバイスの仕方を確認させる。 ・最初は発表メモを見て練習させるが、段々にメモを見ないで発表できるように指示する。 ・評価カードの使い方を確認させ、聞き方に注意させる。 ・1人の発表が終わったら、発表の仕方について聞き手に評価項目にそって評価させる。項目以外でもできるだけたくさんのよさを見つけさせる。 【手立て3】 ・よかった発表を紹介し、望ましい姿のモデルとして活用する。前もって視点を与えて発表を聞かせ、よさをできるだけたくさん見つけさせる。 【手立て2】 ・同じグループで練習させ、前回よりもよい発表ができるように励ます。 ・1人の発表が終わったら、発表の仕方について聞き手に評価項目にそって評価させる。項目以外でもできるだけたくさんのよさを見つけさせる。 【手立て3】
<p>終 末 (5分)</p>	<p>3. 学習のまとめ (1) 今日の学習をふり返り、自己評価をする。 (2) 自己評価したことを発表する。 4. 次時の学習内容の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点に沿って評価カードに自己評価させる。また学習の感想も簡潔に記述させる。 【手立て3】

(3) 具体的評価規準

<p>A</p>	<p>聞き手に自分の考えがよく分かるように、図表や資料を指し示しながら、話す事柄を整理し、順序立てて話している。</p>
<p>B</p>	<p>聞き手に自分の考えがよく分かるように、話す事柄を整理し、順序立てて話している。</p>
<p>努力を要する子への支援</p>	<p>発表メモを見直させ、自分の話したいことを整理させる。</p>